

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	カテーテルアブレーション治療周術期および術後における経口Xa阻害薬リバーロキサバンの有効性及び安全性評価のための後ろ向き観察研究			
2. 対象患者	「非弁膜症性心房細動に対するカテーテルアブレーション治療周術期における経口Xa阻害薬リバーロキサバンの有効性及び安全性評価のための登録観察研究」(2014年11月)にご協力いただいた患者さま			
3. 対象となる期間	委員会承認日 ~ 2019年 3月 31日			
4. 実施診療科等	循環器・腎臓内科			
5. 研究責任者	氏名	木村 正臣	所属	不整脈先進治療学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	奥村 謙 (済生会熊本病院)			
7. 研究の意義	リバーロキサバンの遠隔期(非周術期)における有効性・安全性を検討するとともに、治療遠隔期の抗凝固療法の実際について調査を行うことにより、本邦のカテーテルアブレーション治療の確立に貢献することができると考えます。			
8. 研究の目的	<p>2014年、本邦のカテーテルアブレーション治療の拠点医療機関の協力を得て、「非弁膜症性心房細動に対するカテーテルアブレーション治療周術期における経口Xa阻害薬リバーロキサバンの有効性及び安全性評価のための登録観察研究」(以下、「先行研究」)を実施し、カテーテルアブレーション治療周術期にリバーロキサバンが使用される症例を前向きに登録し、カテーテルアブレーション治療実施後1ヵ月までの経過を観察して、リバーロキサバンの有効性・安全性を評価しました。</p> <p>本研究では、「先行研究」に参加した患者様を対象として、さらに、カテーテルアブレーション治療実施後治療実施1ヵ月以降遠隔期までの経過を後ろ向き(さかのぼって)調査し、リバーロキサバンの遠隔期(非周術期)における有効性・安全性を検討するとともに、治療遠隔期の抗凝固療法の実際について調査を行います。</p>			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合があります)	カテーテルアブレーションの抗凝固療法の成績・経過をカルテにて確認させていただきます。また、研究代表者(奥村 謙:済生会熊本病院)へデータを提供いたします。			
10. 個人情報の保護	登録患者の氏名、生年月日、住所、電話番号等の個人データは研究参加施設からデータセンターへ知らされることはございません。 学会、医学専門誌への発表の際にも、患者の氏名など、対象患者を特定できる情報は含まれません。			
11. 利益相反に関する状況				
12. 連絡先	弘前大学大学院 医学研究科 不整脈先進治療学講座			
	電話	0172-39-5144	FAX	0172-35-5353